MEIJI GAKUIN UNIVERSITY

明治学院
プラチナカレッジ

2026年度
第4シリーズ
（みなと区民大学）

文化と越境
―文学、翻訳、伝統をめぐって―

文化は国境を越えて伝播し、新たな表現を生み出してきました。本講座では、チェコ、スペイン、メキシコとアメリカの文化的往還に注目します。研究者の視点に加え、チェコスロヴァキア時代を知る翻訳者や闘牛士との対話を通じて、音楽、文学（童話・ビート世代）から闘牛の伝統まで、国境を越える文化の力を考えます。

11/20 [fri]

対談

チェコ
～「新世界」への架け橋～

木村 有子（チェコ語翻訳家）

1970年代にプラハの小学校に通う。日本大学芸術学部卒業後、1984～86年プラハ・カレル大学へ留学。1989～94年ドイツ滞在。翻訳書に「もぐらくんの絵本シリーズ」、ヨゼフ・チャペック作『こいぬとこねこのおかしな話』、『火の鳥ときつねのリシカ――チェコの昔話』、『きつねがはしる――チェコのわらべうた』の他、エッセイ集『チェコのヤポンカ――私が子どもの本の翻訳家になるまで』（2024）がある。

貞廣 真紀（本学 文学部教授）

［コーディネータ］
貞廣 真紀
（本学 文学部教授）

ニューヨーク州立大学バッファロー校博士課程修了（Ph.D）。専門は 19 世紀アメリカ文学、環大西洋文化交流。

11/27 [fri]

対談・通訳あり

スペイン
～海を渡るコリーダ・デ・トロス～

イジー・ミェシーツ Jiří Měsíc（グラナダ大学英語ドイツ語文献学科助教授）

パラツキー大学博士課程修了（Ph.D）。闘牛研究に関する近年の業績として "Las huellas del Mesías en la corrida de toros"（「闘牛における救世主の足跡」）（2021）、"Beyond the Red Cape: The Spiritual Odyssey of Antonio Ferrera"（「赤いケープの向こう側――アントニオ・フェレーラの精神的オデッセイ」）（2025）、The Representation of Corrida in Czech Travel Literature from the 15th Century to the Early 20th Century（「15 世紀から 20 世紀初頭のチェコ旅行文学における闘牛の表象」）（2026 年刊行）等がある。

ホセ・ガリード José Garrido（闘牛士）

バダホス闘牛学校で修行を積み、2013 年にデビュー。2015 年、セビリアで正闘牛士に昇格、翌年マドリードのラス・ベンタス闘牛場で、フリアン・ロペスを後見人、セバスティアン・カステージャを証人として昇格確認式を完了した。2025年にはヴィック＝フェザンサック、サフラ、フレヘナル・デ・ラ・シエラ、アズアガ等で勝利を挙げた。

ハビエル・ヴァルデオロ Javier Valdeoro（闘牛士［バンデリジェロ］）

2000年にデビュー。アントニオ・フェレーラ（2022年まで11年間共に活動）やホセ・ガリードといった一流マタドールのクアドリージャに所属。2017 年のセビリア 4 月祭では「キテ（牛の注意を引きつけるケープさばき）」の技術によりドクトール・ビラ賞を獲得。現在、バダホス闘牛学校で若手の育成にも従事している。

貞廣 真紀（本学 文学部教授）

12/4 [fri]

メキシコ
～ビート世代の逃走線～

小椋 道晃（本学 文学部准教授）

ウィスコンシン大学ミルウォーキー校博士課程修了（Ph.D.）。19 世紀アメリカ文学を中心に、ビート世代など対抗文化についても研究している。主な論文に、「空気の詩学――『草の葉』にみる感染の絆」（『病と障害のアメリカンルネサンス――疫病、ディサビリティ、レジリエンス』小鳥遊書房、2025）、「超越主義の伝統と音楽的身体の共振――『オン・ザ・ロード』からソローへ」（『ヒッピー世代の先覚者たち ―― 対抗文化とアメリカの伝統』小鳥遊書房、2019）などがある。

時　間 全日 18:30～20:00　**受講料** 4,500円（全 3 回）　**会　場** 明治学院大学 白金キャンパス
※受講者には別途、教室をお知らせします。

お問合せ
明治学院大学 社会連携部 社会連携課　〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37
TEL：03-5421-5247（平日 9:30 ～ 16:00）　E-mail：mpc@mguad.meijigakuin.ac.jp

お申込み・詳細情報は
こちらから